

<p>経営理念</p>		<p>『あたりまえのこと』に磨きをかける生徒を育てる ①人を思いやり、支え合い認め合う生徒 ②心身を鍛え、心身ともに健康な生徒 ③自ら考え、意欲的に学習に取り組む生徒 ④自らの将来に「夢と希望」を持ち、実現のために努力する生徒 ⑤規範意識を持ち、自ら行動する生徒 ⑥勤労を尊び、地域に奉仕する生徒</p>							
<p>中期経営目標</p>		<p>短期経営目標(評価項目)</p>		<p>自己評価 達成状況</p>		<p>学校関係者評価(H26) 考察</p>		<p>改善策等</p>	
<p>豊かな心 命の尊さを重んじ、 自他を大切にす豊かな人間性の育成に努める。</p>		<p>①基本的生活習慣の定着に努めている。</p>	<p>調査では、朝食を毎日食べるのは80%であり、ほとんど食べないのは5%で、昨年同様であり、ほとんど食べない生徒をもう少し減らすために更なる取り組みが必要である。保健や学級活動での指導のほか、保健委員会によるアンケート実施・分析・呼びかけなど生徒による啓発も行っている。</p>	<p>B</p>	<p>朝食摂取率が小学校と比べて下がっている。携帯電話・睡眠不足等の調査・指導結果を望む。</p>	<p>B</p> <p>家庭等への啓発も重要で、学級懇談・家庭訪問等の機会をとらえて普及啓発に取り組む。携帯電話・スマホについて、生徒・家庭への指導と啓発に取り組んでいく。</p>			
		<p>②不登校生徒や教室に入れないなどの課題のある生徒への支援を行い、その減少に努めている。</p>	<p>教室を個別支援用と少人数支援用に分けて整備し、個々の状態に応じた支援と、教科担当教員の授業など学習支援の充実に取り組み、表情も明るくなり成績の向上が見られた。別室への安定登校、別室登校から教室への部分復帰などの改善はあるが、長欠生徒の出現率は4.4%と依然高い。定期的な支援会や校内研修等で個々の生徒に応じた支援の協議を行うなど、組織的に取り組んでいる。</p>	<p>B</p>	<p>支援が必要な生徒に対し、個々の状況に応じた支援策が取り組まれ、一定の成果が見られている。生徒自らが進路を主体的にとらえ、自立を目指して学校生活が送れるよう現取り組みの継続に努めてほしい。</p>	<p>B</p> <p>支援を要する生徒の実態に応じた居場所づくりを継続し、安定登校、学習支援を行う。SCや教育支援センターとの連携を密にし、予防と支援の一体化をめざす。</p>			
		<p>③自己肯定感を育む勇気づけや場の設定を積極的に行い、自尊感情を高めている。</p>	<p>日常的な生徒への声かけ(ボイスシャワー)とともに、生徒の思いを聴く個人面談を実施し、一人一人の思いを受け止め勇気づけを行った。学級内や学年を越えてメッセージづくりに取り組み、展示するなど、生徒間同士認め合う活動を取り入れた。自尊感情の肯定的意見が77.2%で、「自分には良いところがある」が64.6%と年度当初より4.6上昇している。</p>	<p>B</p>	<p>生徒の思いを聴く個人面談は大変良い取り組みである。取り組みを一步進め、自己有用感(誰かのために、役に立つ存在)の確立に取り組んでほしい。</p>	<p>B</p> <p>挨拶や声かけ、がんばりや優しさの価値付けに積極的に取り組み、信頼関係と自己肯定感を育てていく。生徒会活動を活性化し、生徒の活躍の場・承認の場を増やし、自己肯定感・自己有用感を育てていく。</p>			
		<p>④学級活動や生徒会活動を通して、コミュニケーション力や連帯感とともに、生徒の自治力を育成している。</p>	<p>生徒が主体となった行事づくりに取り組み、体育祭や文化発表会に向けて自発的に取り組む姿や仲間への声かけが多く見られるなど、学級への所属感・連帯感を高めることができた。しかし、日々の生活の中での仲間への声掛け等はまだまだ不十分である。</p>	<p>B</p>	<p>学校行事における連帯感の向上が見られ、ひとつの目標に向かって取り組む姿勢が見られている。トラブルがあっても解決の方向に導けるコミュニケーション能力の育成に努める必要がある。</p>	<p>B</p> <p>生徒自身が自分たちでやっているという実感が持てる行事や生徒会活動を仕組む。 ・生徒会による集会の運営と集会での発表力の向上 ・生徒のアイデアが活かされる専門委員会活動と委員長のリーダー力の発揮 ・生徒が中心となった行事の企画・運営</p>			
		<p>⑤キャリア教育(進路指導の充実)を推進し、将来の夢や希望をもった生徒の育成に努めている。</p>	<p>各学年とも、自分の将来や進路について考える学習に取り組んでおり、学校評価アンケートでは76.8%の生徒が「目標をもって生活している」と回答し、そのなかでも「そう思う」は42.1%と昨年より10ポイント向上している。</p>	<p>B</p>	<p>将来の夢や希望をもった生徒が多くいることは、仲間意識、連帯感の向上につながるため、学校生活以外で、地域住民や他者とかかわるキャリア教育の推進を継続実施してほしい。</p>	<p>B</p> <p>学びのポートフォリオを活用し、自分の良さを生かした進路目標を持つことができるよう、指導・支援する。</p>			
		<p>⑥人権教育、道徳教育を充実、推進している。</p>	<p>道徳参観DAYに向けて授業の事前研修会を実施し、教員の共通理解を図りながら、道徳教育に取り組んだ。道徳の時間についての肯定的意見が81.3%→83.7%と向上している。</p>	<p>B</p>	<p>「自分の人権を守り他者の人権を守る」といった人権をより身近に感じる学習に取り組む、家庭、地域、学校等、日常生活のあらゆる場面で人権が確立される社会を目指して取り組む意識を生徒に求めたい。</p>	<p>B</p> <p>日々の生活に結びつくようさらに指導法等工夫する。</p>			

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H26)		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
確かな学力	関わり合い、学び合う学習集団づくりをすすめ、全国水準の学力を確保する。	①校内研修や教科部会を活性化し、授業改善に組織的に取り組んでいる。	授業改善プラン(国数英)を作成し、中間検証まで数回にわたり、指導主事の助言、指導を受け、教科部会で具体的な数値目標を立て、改善プラン取組内容の確認をした。中間検証後は、単元目標を明確に、共通理解のもとで改善を推進した。授業アンケート実施や数値目標等の達成度の検証により、課題点を明らかにし、次年度に継続すべき取組事項を具体化した。授業スタンダード10項目を夏期研で提案し、2学期より教科横断的な実施をスタートさせた。前時の振り返り、学習のめあての提示、シラバスの掲示、自力解決の時間の確保、本時の振り返りについては一定の定着が見られるが、グループ活動は学習規律定着が不十分のため、できていないクラスが多くあり、課題を残した。	B	学力向上に向け、研究主任を中心に教科部会等、組織的な研修体制で取り組んでいる。ユニバーサルな視点での授業づくりが必要である。	B	本校の実態に合った授業スタンダードを更に具現化し、日常化を目指す。各教科部会で、指導改善に関するプランを作成し、授業アンケートの結果や数値の検証により、課題を掌握し、課題解決に向け取り組む。
		②生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・人間関係育成)を生かした授業づくりに取り組んでいる。	公開授業等では授業参観シートを活用し3機能を生かした授業づくりができていないか参観者によるチェックを行った。全校授業研の達成度の検証率は「自己決定の場を与えることに関する手立て」83.9%、「自己存在感を与えることに関する手立て」88.3%、「共感的な人間関係を育成する手立て」75.6%であった。グループ学習を通し、お互いの良さを認め合い、意見や考えが言えるような指示的風土を作るための授業設計に課題がある。	B	授業に生徒指導の3機能を取り入れているのは大変良い。続けていくことが効果的である。	B	生徒指導の3機能を活かした授業づくりを継続して行い、生徒同士関わり合う活動や形態を取り入れ、お互いの良さを認め合い、意見や考えが言える授業設計に取り組む。
		③学力調査等の客観的なデータによる課題把握をもとに、授業改善を行い、学力向上に取り組んでいる。	標準学力テスト、全国学力調査の検証内容を教科部会、全体で共通理解した。課題を解決の方策を検討し、達成目標を明確にし、2学期末に定期テスト等のデータをもとに検証した。目標値に達していない領域は、冬休み中も含め、家庭学習で定着を図る取組をし、県学力調査に臨むようにした。	B	教科部会を中心に、データ分析を行い、指導主事の助言も仰ぎながら、授業改善に取り組んでいる。	B	目標設定、課題を残している単元を克服するための方策を可視化し、意識した授業改善を行い、定期テストに類似問題を出题する取り組みなど、意図的に実践していく。
		④家庭学習の習慣化に努め、予習・復習の質と量を高めている。	クラスで自主学習、英語のがんばりノートに毎日、担当がチェックし、未提出の生徒は放課後までには提出できるように、声掛けや居残り学習をした。内容の質を高めるため、教科の担当から、効果的な学習内容を提示し、質向上に努めた。生活アンケートでは、1時間を超える生徒が、1年生では67%→59%に減少したが、2年生39%→41%、3年生39%→41%と増加した。今後もコンスタントに提出できない固定化した生徒への指導を継続して行っていく。	B	家庭学習の時間は1時間以上が60%を越えてほしい。家庭学習の定着にしっかり取り組んでほしい。	B	次時の授業に活かせる課題など課題の内容と与え方を工夫する(予習の在り方)。家庭学習の質の向上に取り組む。家庭学習の量や質について、生徒同士互いのがんばりを認め合い、刺激し合う場を設定する。
		⑤複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援を行っている	英語科、数学科では全学年複数で指導に当たり、個々の生徒へのサポートができた。特に、3年生では英語科の教員を配置し、「書くこと」「話すこと」に関しては専門性を生かした指導ができ、定期テストでは目標値に達することができた。数学科では3年生の少人数形態の授業を一部実施することができた。	B	個別支援の必要な生徒に対し、取り出しや支援員の配置、放課後学習等、支援に努力している。	B	TTや少人数学習、取り出し指導など、生徒にとってより効果的な指導法を研究し、実施していく。

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H26)		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
信頼される学校	①予防的な視点での生徒指導に努め、落ち着いた学校を維持している。	Q-Uアンケート分析、生徒理解研修等を実施し、教職員全体で個々の生徒理解に取り組んでいる。生徒の様子に気を配るとともに、生徒へ肯定的な声かけを意識して行い、個人面談の実施等、信頼関係の構築に力を入れた。授業では「生徒指導の3機能」の視点を意識して授業改善に取り組んでいる。「道徳意識調査」で生徒の人間関係・規範意識に関する肯定的意見は90%を越えているが、なかなか行動に結びついていない。	C	自尊心の向上につながった取り組みである個人面談を継続的に取り組むことにより、信頼関係の構築に努めている。危険箇所への出入り、学校生活の場以外での生徒の行動に課題が残っている。個々の生徒への指導は家庭も含めた形で継続指導していくことが必要。	C	共感的・肯定的声かけや面談などを継続し、教職員の生徒理解力を高め、生徒との信頼関係を構築する。「夢いっぱいプロジェクト」を実施し、生徒主体の取り組みを多く仕組み、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、生徒相互の信頼関係を構築していく。生徒指導部会を活性化し、「子どもの力や可能性を引き出す生徒指導」のベースを構築する。
	②参観日や行事等、学校の活動に保護者や地域の人参加を増やし、地域の教育力の活用に努めている。	年間3回の参観週間、人権参観日・親子講演会の実施。文化発表会は約260名の参加があったが、参観週間は1日平均15~20人、人権の授業参観は約80名、親子講演会は約60名と保護者の参加が少ない。問題行動の防止に、関係機関との連携を深めて取り組んでいる。総合的な学習(赤ちゃんふれあいや職場体験)と家庭科(弁当作り、コソコソ青春講座)で地域の方の協力をいただいた。	C	学校行事等に保護者の関わりが少ない。生徒一人一人に声かけができる地域づくりに向けてPTAも取り組むことが必要。すべての会で目標の人数をめざすのではなく、まずは的を絞って取り組んでほしい。	C	土曜授業の充実に取り組み、地域・保護者の参加を増やす。
	③保護者や地域へ学校の情報を積極的に発信している。	学校・学年・学級便りや、連絡メールで情報を発信している。学校の現状と取り組みについては、学年・学級懇談会やPTA拡大企画委員会等で説明している。特に2年生の状況については、夜間懇談会を2回実施。しかし、学校評価アンケートによると保護者の約7割が「情報提供・連絡を積極的にしている」と回答している。	C	便りの発行や学年・学級懇談会等で、学校情報を常に発信しており、約7割の保護者は満足している。	B	便りの発行を連絡メールで保護者に知らせる。学年・学級懇談会を計画的に実施する。
	④学校評価を実施し、学校運営の改善に努めている。	12月に学校評価アンケートを生徒・保護者・教職員対象に行い、取り組みの検証を行っている。開かれた学校づくり推進委員会の意見を共有し、改善に取り組んでいる。しかし、学校評価アンケートによると、「保護者や地域の声を活かしている」と回答した保護者は約6割である。	B	取り組んでいるが、まだ保護者に十分伝わっていない状況がある。今後も開かれた学校づくり推進委員会や学校評議員会での意見や学校評価アンケートを学校運営に活かして、具体的な取り組みや成果を明確にしてほしい。	B	学期ごとの開かれた学校づくり推進委員会や学校評議員会での意見を参考に随時見直しと改善を行うとともに、学校評価アンケート結果をもとに、学校運営の検証を行い、次年度の取り組みに活かす。
	⑤安心・安全な学校づくりを進める。	地震後火災発生を想定した避難訓練と緊急地震速報を使った訓練を実施し、地震発生時の行動と避難の仕方を教職員・生徒とも確認した。真剣に取り組むことに課題が残った。風水害も含めた危機管理マニュアルを作成した。	B	生徒の靴型上履きの使用など、日々の学校生活の中での防災意識の向上に努めている。避難訓練を通して、災害発生時の生徒の行動を教職員と常に確認しあう取り組みを行ってほしい。	B	安全教育や防災教育に計画的に取り組む、生徒の安全意識と防災対応力を向上させる。避難訓練の実施。

評価基準 A:十分満足 (~80%) B:おおむね満足 (80%~60%)
 C:もう少し努力すべき (60%~40%) D:大いに努力が必要 (40%~)